

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

第2版

伊勢湾を守ろう

～生物多様性保全と地域共生環境活動～



一般社団法人 日本電機工業会 名古屋支部
環境委員会

【目 次】

1. 事例掲載企業の拠点	2
2. 語句の説明	3
3. 愛知目標との関連性	5
4. 企業がなぜ取り組むのか	7
5. 各社事例紹介	8

はじめに

昨今、環境に対する関心が高まり続ける中、日本電機工業会(通称:JEMA)名古屋支部 環境委員会では、「低炭素社会の構築」「循環型社会の構築」「環境保全と自然共生社会の構築」を環境活動の重要テーマとしてとらえています。

伊勢湾を囲む東海の各地に立地する会員17社の電機製造事業所では、「省エネルギー」「省資源」「環境保全」「環境負荷物質の削減」「地域自然環境保護活動」等において、各社の状況に合わせた様々な環境保全活動に取り組み、伊勢湾をはじめとする東海地域の自然環境を守り、地球環境保護に貢献していくことを目的に環境活動を行っています。

名古屋支部の活動としては、会員企業が定期的に集まって委員会を開催し、環境分野全般に関して情報交換を行い、各社の環境活動の活性化に努めてきました。生物多様性条約第10回締約国会議(2010年10月)、ESDユネスコ世界会議(2014年11月)が愛知県開催であったことにちなみ、当委員会の開催が100回の節目を迎えた2014年に「生物多様性保全と地域共生環境活動」に関する各社の取り組みを事例集(初版)として発行しました。

近年、生物多様性を含む社会的な課題に関して国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」が話題となっており、環境マネジメント規格ISO14001改訂版においても環境保護に対するコミットメントを環境方針に含める事が要求されるなど、企業にとって生物多様性に関わる取り組みを行うことがますます重要になっています。

このような背景のもと、当委員会では事例集の第2版を発行することとなりました。この事例集が当地域の企業をはじめとする皆様の環境保全活動の一助となり、東海地域の自然環境の維持につながれば幸いです。

1. 事例掲載企業の拠点



No.	会社・事業所名	
①	愛知電機株式会社	(愛知県春日井市)
②	河村電器産業株式会社	(愛知県瀬戸市)
③	シンフォニアテクノロジー株式会社 豊橋製作所	(愛知県豊橋市)
④	シンフォニアテクノロジー株式会社 伊勢製作所	(三重県伊勢市)
⑤	東芝ライフスタイル株式会社	(愛知県瀬戸市)
⑥	東芝インフラシステムズ株式会社 三重工場	(三重県三重郡)
⑦	日東工業株式会社	(愛知県長久手市)
⑧	日本ガイシ株式会社	(名古屋市瑞穂区)
⑨	パナソニック エコシステムズ株式会社	(愛知県春日井市)
⑩	パナソニック スイッチギアシステムズ株式会社	(愛知県尾張旭市)
⑪	パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 津工場	(三重県津市)
⑫	富士電機株式会社 鈴鹿工場	(三重県鈴鹿市)
⑬	株式会社 マキタ	(愛知県安城市)
⑭	三菱電機株式会社 中津川製作所	(岐阜県中津川市)
⑮	三菱電機株式会社 名古屋製作所	(名古屋市東区)
⑯	株式会社明電舎 名古屋事業所	(愛知県清須市)
⑰	リンナイ株式会社	(名古屋市中川区)
⑱	一般社団法人日本電機工業会 名古屋支部	(名古屋市中区)

2. 語句の説明 ※本項目の内容は、それぞれに記載の WEB ページ(URL)を引用・参照し記載した。

◇生物多様性(Biodiversity)

生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応・進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接的・間接的に支えあって生きています。生物多様性条約では、“生態系の多様性”、“種の多様性”、“遺伝子の多様性”という3つのレベルで多様性があると定義されています。

【<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/about.html> (環境省/生物多様性とは)】

1992年のリオサミットでは、気候変動対策とともに生物多様性保全が協議され、世界的な枠組みである生物多様性条約が合意されました。その後2年おきに生物多様性条約の締約国会議(COP)が開催され、生物多様性保全への取り組みが話し合われています。2010年にCOP10が名古屋市で開催され、名古屋議定書および愛知目標が合意されました。この条約には2018年現在、196の国と地域が加盟しています。

【<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/jyoyaku/bio.html> (外務省/生物多様性条約)】

◇愛知目標(あいちターゲット)

名古屋市で開催されたCOP10にて合意された2020年までに取り組むべき20の目標。わが国では、環境省をはじめ行政機関や団体などが、この目標に関連した取り組みを実施・推進しています。企業でも自社の取り組みを愛知目標に関連付けする事例が見受けられるようになりました(詳細はP.5、6参照)。

【<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/> (環境省/愛知目標)】

◇国連生物多様性の10年

「生物多様性戦略計画」取り組み期間である2011～2020年の10年間。2010年のCOP10で提案され、同年国連総会で決議されました。COP10の各種決議事項を実施していくための「生物多様性戦略計画」を生物多様性条約事務局の支援のもと、国連機関や加盟国など国際社会が協力して実現することとされています。

【<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/misia/cop10.html> (環境省/国連生物多様性の10年とは)】

◇生物多様性基本法

2008年に施行された日本の法律。生物多様性の保全と利用に関する基本原則、生物多様性国家戦略の策定、白書の作成、国が講ずべき基本的施策など、わが国が進めていく上での基本的な考え方が示されています。また、国だけでなく、地方公共団体、事業者、国民・民間団体の責務、都道府県及び市町村による生物多様性地域戦略の策定の努力義務などが規定されています。

【<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/kihonhou/index.html> (環境省/生物多様性基本法)】

◇ESD(Education for Sustainable Development :持続可能な開発のための教育)

ユネスコが普及推進している持続可能な社会づくりの担い手を育む教育活動。環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目標にしています。2014年には、名古屋市でESD ユネスコ世界会議が開催されました。

【<http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm> (文部科学省/日本ユネスコ国内委員会、ESD)】

◇SDGs(エスディーゼーズ Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)

世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために2015年に国連が提案し、世界各国が合意した17の目標と169のターゲット。貧困問題をはじめ、気候変動や生物多様性、エネルギーなど、持続可能な社会をつくるために先進国も発展途上国も世界が一致して取り組むべきビジョンや課題が網羅されています。

生物多様性や生態系は社会・経済の基礎であり、その保全は持続可能な社会を実現することと密接不可分であることから、愛知目標の達成はSDGsの達成につながると言えます。このため、国内外の企業では、SDGsで示された社会課題をビジネスチャンスと捉え、経営戦略に取り込むとする動きが始まっています。

【<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html> (外務省/SDGs とは?)】

◇ESG(Environment, Social, Governance)

企業の持続可能性を判断する環境・社会・ガバナンスの3つの要素。世界各国の年金基金のような長期運用が求められる大規模資産保有者は、ESGに取り組んでいる企業を投資対象にしています(これをESG投資と呼びます)。その投資指標として、格付機関がESG面で企業を評価しており、企業は自社の企業価値を高めるために、ESGについての取り組みを強化しています。

【<https://sustainablejapan.jp/2016/05/14/esg/18157> (Sustainable Japan/ESG とは)】

◇絶滅危惧種

人為的・非人為的に関わらず、様々な要因で個体数が減少し、絶滅の危機に瀕している種。日本においては、環境省が公表しているレッドリスト2018で、3,675種が絶滅危惧種に指定されています。

【<https://www.env.go.jp/press/105504.html> (環境省/環境省レッドリスト2018の公表について)】

◇在来種と外来種

昔からその地域に生息していた生物のことを在来種と呼ぶのに対し、例えばブラックバスのように、もともとその地域に生息していなかったのに、人間の活動によって、他の地域からはいつてきた生物のことを外来種と呼びます。渡り鳥のように自力で移動するものや、魚や植物の種子のように海流に乗って自然に移動するものは外来種と呼びません。さらに外来種の中でも、在来種を駆逐したり、人間や農作物に害を及ぼしたりするものについては、環境省が外来生物法に基づき、特定外来種に指定して、輸入や飼育などを規制しています。

【<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html> (環境省/日本の外来種対策)】

◇里地里山

原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域。農林業などに伴うさまざまな人間の働きかけを通じて環境が形成・維持されてきました。しかし、高齢化や産業構造の変化により、里地里山は環境変化を受け劣化し、その影響の一つとして、野生生物による農作物の被害や集落への侵入が問題になっています。

【<http://www.env.go.jp/nature/satoyama/top.html> (環境省/里地里山の保全・活用)】

◇ビオトープ

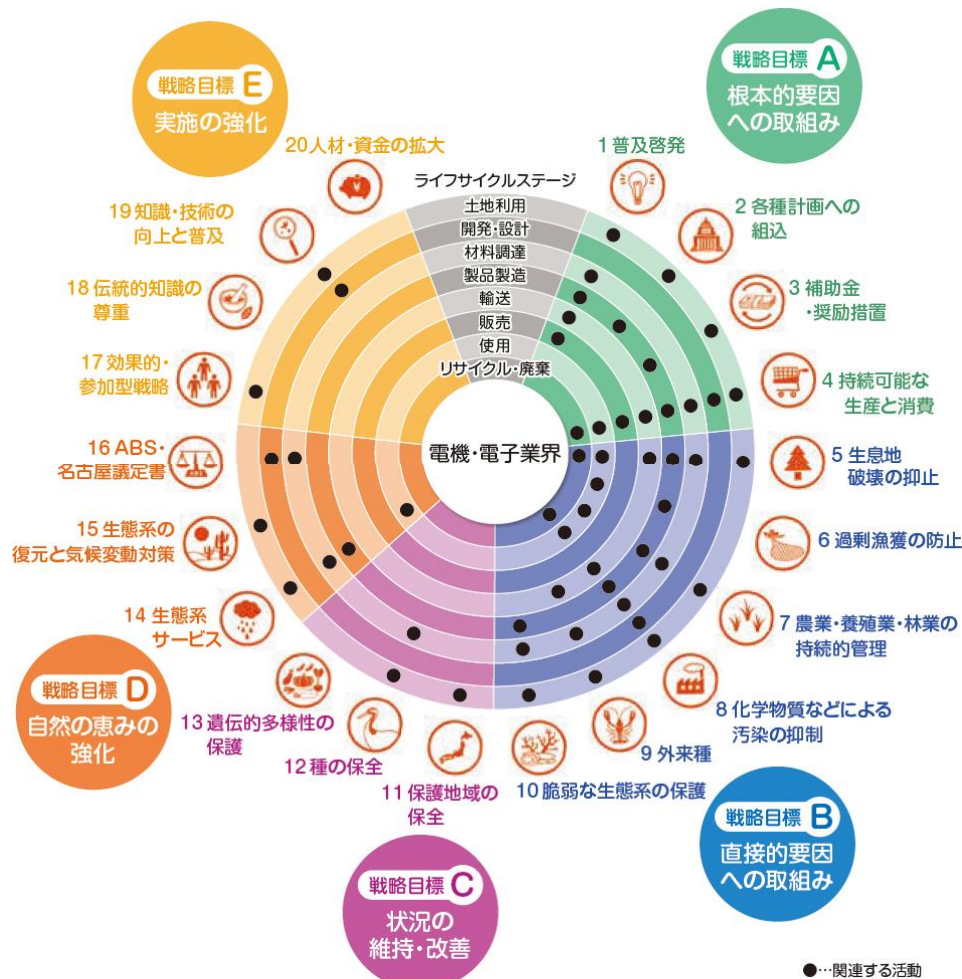
工業の進展や都市化などによって失われた生態系を復元し、本来その地域にすむ生物が生息できるようにした空間。ギリシャ語で「生物」を意味する「bios」と「場所」を意味する「topos」の合成語で、ドイツなどのヨーロッパから始まったこの動きは日本にも広がり、各地で国や自治体、学校、NPO/NGO、企業などによるさまざまな取り組みがみられます。

【<http://tenbou.nies.go.jp/science/description/detail.php?id=92> (環境展望台/ビオトープ)】

3. 電機・電子業界の生物多様性保全活動と愛知目標の関連性

愛知目標の20の個別目標と電機・電子業界における環境保全活動、ならびに生物多様性保全活動の関連性を土地利用、研究開発・設計、材料調達、製品製造、輸送、販売、使用、回収・リサイクル・廃棄といった事業活動のライフサイクルステージ毎に整理し、20の個別目標のうち17項目に関連することを明らかにしました(下図参照)。

※愛知目標の概要は、P.3をご参照ください。



電機・電子業界の生物多様性保全活動と愛知目標の関連性

※図中の●印(関連する活動)は、直接的・間接的な影響やそれぞれの影響度合いの大きさを区別せず、何らかの関連がある場合にプロットしています。従って、●印の数が関連の大きさを示すものではありません。

具体的な行動例

愛知目標の20の個別目標について、特に当業界の事業活動と関連の深い8項目についての行動指針(P.6)、および JEMA 名古屋支部環境委員会登録企業の取り組み事例(P.8~33)を掲載します。様々な取り組み事例を紹介しておりますので、ぜひご参照ください。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

電機・電子業界における生物多様性の保全にかかわる行動指針

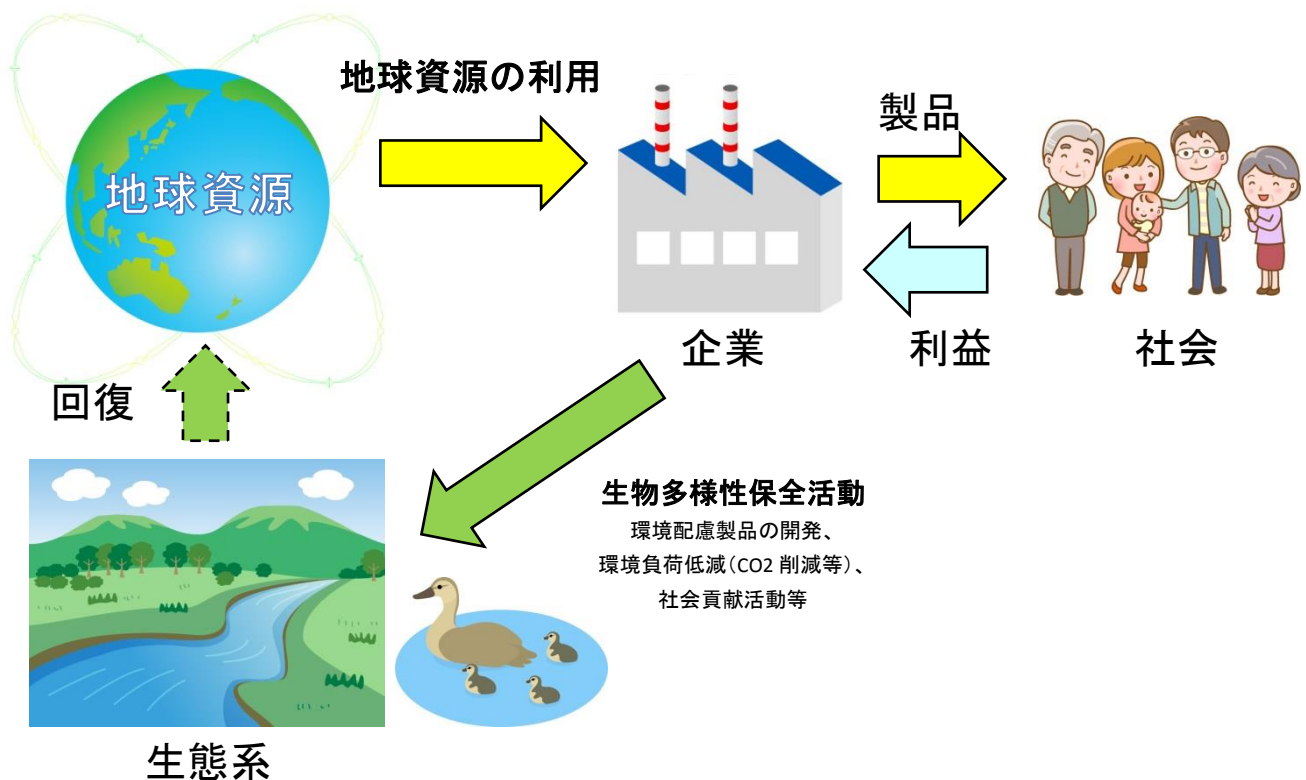
愛知目標		行動指針	SDGs
目標 1 普及啓発	人々が生物多様性の価値と行動を認識する	生物多様性を保全することの重要性が広く認知されるように、従業員への生物多様性に関する教育を積極的に推進する。また、取り組み状況の情報発信やステークホルダーとの連携を通して、社会の意識向上に貢献する。	4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任 消費の責任
目標 4 持続可能な生産と消費	すべての関係者が持続可能な生産・消費のための計画を実施する	持続可能な生産及び消費の実現に向け、各ライフサイクルステージにおいて、自社の生産活動やサプライチェーンも含めて以下の活動を積極的に推進する。 ■低炭素社会実行計画に則した取り組みの推進 ◎生産プロセスにおける CO2 排出抑制の継続的取り組み ◎低炭素社会の実現に資する製品・サービスの供給 ■環境自主行動計画（循環型社会形成編）に則した取り組みの推進 ◎廃棄物最終処分量の削減 ◎3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動 ■直接的に生物多様性保全に資する取り組みの推進 ◎生物多様性に配慮した原材料調達など	8 働きがいも 経済成長も 9 産業と地域革新の 基盤をつくろう 12 つくる責任 消費の責任
目標 5 生息地破壊の抑止	森林を含む自然生息地の損失が少なくとも半減、劣化・分断が顕著に減少する	生息地の保護ならびにその劣化と分断を低減するために、生物多様性に配慮した事業所の緑地管理や社会貢献活動、周辺地域における生態系ネットワークの構築などを積極的に推進する。	15 陸の豊かさを 守ろう
目標 8 化学物質などによる汚染の抑制	化学物質・肥料・農薬の汚染を有害でない範囲まで抑える	生態系や生物多様性にとって有害な汚染を防止するため、グローバル視点で化学物質の適正管理に努め、生態系への悪影響を積極的に抑制する。	14 海の豊かさを 守ろう
目標 9 外来種	侵略的な外来種を制御し、または、根絶する	侵略的外来種による影響を防除するため、主に製品の輸送時や事業所の緑地管理、社会貢献活動などにおいて、侵略的外来種の駆除や侵入の防止、ならびに意識啓発を積極的に推進する。	15 陸の豊かさを 守ろう
目標 11 保護地域の保全	少なくとも陸域の 17%、海域の 10%を保護地域などにより保全する	生物多様性にとって重要な保護地域の面積拡大のため、社有地や事業所における保護地域に資する生物多様性に配慮した緑地管理や、社外の保護地域における保全活動を積極的に推進する。	11 住み続けられる まちづくりを 14 海の豊かさを 守ろう
目標 14 生態系サービス	自然の恵みをもたらす生態系が回復・保全される	生態系サービスが持続可能な形で利用できるように、生態系の保全・回復活動を積極的に推進する。	6 安全な水とトイレ を世界中に 15 陸の豊かさを 守ろう
目標 19 知識・技術の向上と普及	関連する知識・科学技術を改善する	生物多様性に関する知識、科学的基盤、及び技術の向上を目指し、情報通信技術を使ったモニタリング技術の開発と普及、生物多様性モニタリングによるデータ蓄積などを積極的に推進する。	17 パートナーシップで 目標を達成しよう

※P.5、6 は電機・電子 4 団体環境戦略連絡会生物多様性ワーキング・グループ「電機・電子業界における生物多様性の保全にかかわる行動指針」を引用・参照し作成した。

4. 企業がなぜ取り組むのか

私たち企業は、地球資源を活用し、事業活動を行っています。これにより資源の採取・採掘、製品・サービスの利用・消費、排気・排出、土地利用などの様々な形で生物多様性に影響を与えています。

一方、生物多様性は(生態系サービスにより)地球資源の回復に重要な役割を担っていることから、生物多様性の保全活動は、企業自身の存続のために必須の課題となります。



生物多様性の保全活動は、生物多様性基本法でも取り組みを促しており、電機・電子業界においても行動指針を策定し、取り組みを進めております。

5. 各社の事例紹介

《目次:全 25 事例》

会社・事業所名 事例 No. タイトル (対応愛知目標番号)	頁
愛知電機株式会社 No.1 環境美化 (14)	9
河村電器産業株式会社 No.2 オオサンショウウオの水守れ!! (1,5,14) No.3 公園のような工場プロジェクト (1,5,9,12,14,19)	10 11
シンフォニアテクノロジー株式会社 豊橋製作所 No.4 530 運動環境協議会(豊橋市)への参画 (14)	12
シンフォニアテクノロジー株式会社 伊勢製作所 No.5 地域貢献活動への参画 (14)	13
東芝ライフスタイル株式会社 No.6 希少生物の保護 (1,5,11,12)	14
東芝インフラシステムズ株式会社 三重工場 No.7 清掃活動による地域貢献取り組み (1)	15
日東工業株式会社 No.8 公園工場の推進による地域環境保全への貢献 (5) No.9 愛 N クリーンへの継続参加による地域環境保全への貢献 (11)	16 17
日本ガイシ株式会社 No.10 社有地の生物調査 (5,9,14) No.11 MY 行動宣言活動の推進 (1)	18 19
パナソニック エコシステムズ株式会社 No.12 環境絵画コンクールを継続開催 (1) No.13 かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議への参加 (5)	20 21
パナソニック スイッチギアシステムズ株式会社 No.14 工場緑化と環境施設の紹介 (4) No.15 地域貢献活動 (5)	22 23
パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 津工場 No.16 ながきの森植林及び地域の清掃活動 (1,5,14)	24
富士電機株式会社 鈴鹿工場 No.17 自然環境保護と社会貢献活動の取り組み (1,5,14)	25
株式会社 マキタ No.18 充電式OPEの開発・販売 (4) No.19 工場・事業所周辺の環境整備 (5)	26 27
三菱電機株式会社 中津川製作所 No.20 里山保全活動・野外教室 (1,5,14) No.21 生産時 CO2 排出量削減活動 (4,15)	28 29
三菱電機株式会社 名古屋製作所 No.22 三菱電機名古屋製作所の企業の森づくり (1,9,11,12)	30
株式会社 明電舎 名古屋事業所 No.23 中学生への校外学習(職場訪問)の実施 (1,8)	31
リンナイ株式会社 No.24 「抜く!」生物多様性保全活動 (1,9,12) No.25 みんなでつくる伝統野菜 (1,13)	32 33

事例 No.1

対応愛知目標:

会社名: 愛知電機株式会社

タイトル: 環境美化



活動事例 概要

1. 地域住民とともに美しい河川を守ろうと「庄内川アダプト」に参加しています。
2. 工場塀外周りの全社一斉構外環境整備を実施しています。
3. 春日井市民とともに「ポイ捨て・ふん害防止啓発活動」に参加しています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

当社は名古屋市と庄内川を挟んで北隣の春日井市に立地しています。また、環境基本方針では社会や地域における緑化・美化活動に積極的に参画することを約束しています。これらのことから「庄内川アダプト」、及び「ポイ捨て・ふん害防止啓発活動」に参加し、構外環境整備を実施しています。これらの活動への参加は、当初戸惑いもありましたが、継続することにより社員の環境に対する意識も向上し、定着するようになりました。

活動事例の説明

「アダプト」は養子縁組を意味する言葉で、庄内川を子ども、団体・企業など地域を里親にたとえ、一定区間の河川敷の清掃活動などを里親が受け持つ、国土交通省庄内川河川事務所主催の活動です。「庄内川アダプト」には、2003年にモデル事業として始まったときから参加し、年4回実施する全社一斉構外環境整備に合わせ、ゴミ収集などをおこない、河川環境の美化に努めています。また、「ポイ捨て・ふん害防止啓発活動」は、「春日井市ポイ捨て及びふん害の防止に関する条例」に基づいて春日井市と「空き缶等散乱防止協定」を締結しており、1999年から年1回、多数の市民とともに市内の公園周辺の清掃活動に参加しています。



庄内川アダプト



構外環境整備



ポイ捨て・ふん害防止啓発活動

メッセージ

事業活動のあらゆる面で環境保全に貢献していく中で、これらの環境美化活動も近郊地域の環境保全から伊勢湾を囲む東海地域の環境保全へ、さらに地球環境の保全へ繋がる貢献を目指していきます。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

事例 No. 2

対応愛知目標:

会社名: 河村電器産業株式会社

タイトル: オオサンショウウオの水守れ!!



活動事例 概要

瀬戸市環境パートナーシップ事業者会議の取り組みの一環として、地域の環境保全活動及び会員同士の交流を目的に瀬戸市内10数社の事業者が集まり、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息している蛇ヶ洞川(じゃがほらがわ)のクリーンアップ活動を行っています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

瀬戸市は「環境創造都市」の実現を目指して、地域とともに協力して環境への取り組みを実施しています。その一つにパートナーシップ型組織による連携づくりがあり、2007年地域のゴミ減量化及び地球温暖化防止を目的として市内の様々な業種の事業者が集まりレジ袋削減運動が開始されたのをきっかけに、瀬戸市環境パートナーシップ事業者会議が設立されました。地域貢献活動は企業単独ではむずかしいところがありますが、事業者が協働して、地域における環境(保全・改善)活動の推進、情報交換、異業種での交流及びネットワークづくりの促進を図っています。

身近な環境問題の一つに「ゴミのポイ捨て」があります。何か事業者会議で具体的に行動に移せる事はないかと議論していたところ、市内に、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息する自然豊かな場所があるにも関わらず、ここでもゴミのポイ捨てや不法投棄が問題となっており、地元で保護活動をされている団体の方々が苦労して清掃活動を行っているという話を事業者会議の会員が聞きつけ、事業者会議の会員に参加を呼びかけ、清掃活動を実施することになりました。

活動事例の説明

2013年から毎年、事業者会議の地域貢献活動として継続して実施。最近では、地元町民の方々、市民団体の方々との連携した取り組みとなり、参加者も増えています。オオサンショウウオの人口巣穴の上流付近の川底に沈むゴミ、川に沿って走る林道からのポイ捨てのゴミを回収。2時間ほどの作業で2トントラックの荷台はいっぱい。



メッセージ

ゴミのポイ捨てを無くすには、ゴミを捨てる人に意識を変えてもらう必要があります。「捨てる先にも人が住んでいて、環境を良くしようと一生懸命に生活している。」という事を一度考えて見ましょう。「自分の出したゴミは自分で始末する。」私たちの住む町をきれいにしたいですね。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

事例 No. 3

会社名: 河村電器産業株式会社

タイトル: 公園のような工場プロジェクト

対応愛知目標:



活動事例 概要

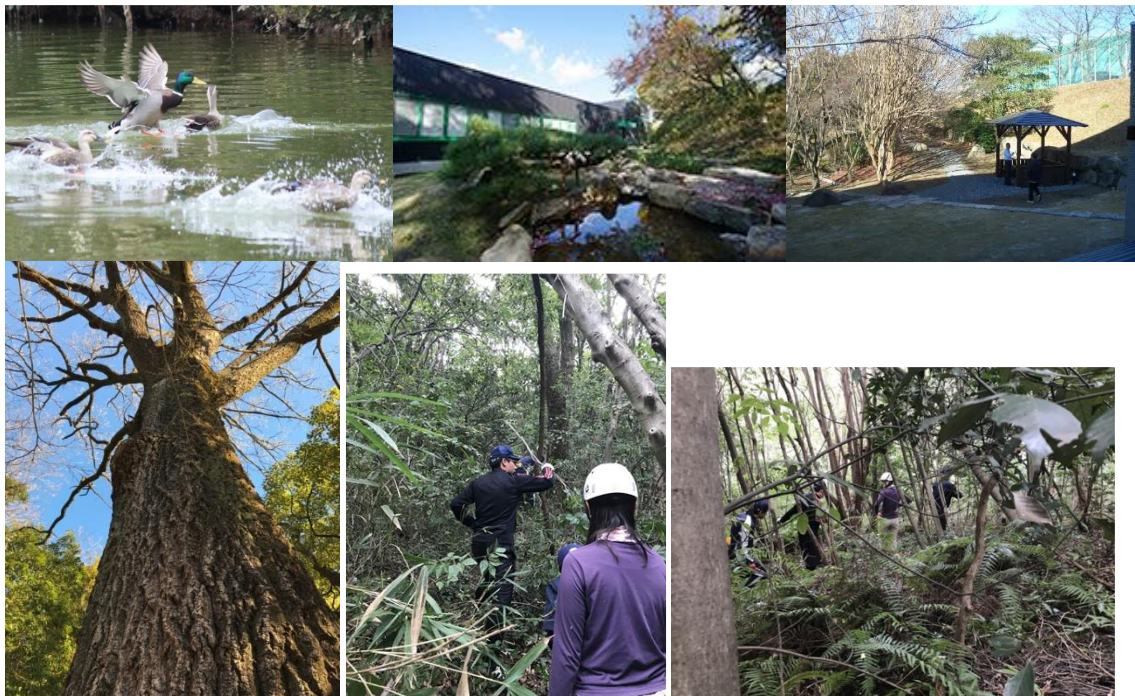
敷地内に既にある自然を生かし、“公園のような工場” 実現に向けて、瀬戸市役所やNPOの方々の力を借りながら憩いの空間の形成〈遊歩道の整備〉〈自然に親しむ仕掛け作り〉に取り組む活動を推し進めています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

生物の多様性が、一人ひとりの生活に、どのようにかかわっているのかを実感するのは、難しいかもしれませんが、それでも、生物多様性が、私たち人類の生存に、大きくかかわっていることは、まぎれもない事実です。カワムラの敷地内には既に豊かな自然があります。稀少植物も自生しています。この恵まれた環境を大切に、後世に長く残したい。従業員の心が休まる、緑豊かな工場にしたい。私たちは、生物多様性の保全を目指した公園のような工場プロジェクトを展開していきます。

活動事例の説明

本地エリアの中で、どんな植物や生物が共存しているのか調査。樹齢 100 年(推定)の大クスギ、サルスベリの並木、瀬戸市の木として認定されているクロガネモチ。春には竹林でタケノコが収穫でき、夏の早朝には樹木にカブトムシやクワガタが集まる。秋はモミジやイチョウが色づき、冬には3種類のカモが水神池で泳ぐ。暁エリアの北側のり面は完全な未開の地！2017 年誰も踏み入れていない樹海に突入し、自生植物の調査を開始。



メッセージ

カワムラには会社の歴史と同じ時間をすごした自然という貴重な財産がある・・・
もっともっと多くの人に見て、知ってもらいたい、そしてみんなで守っていかなくてはいけない・・・
“Think Globally Act Locally” 今私たちに来ることからはじめていきます。

事例 No. 4

対応愛知目標:

会社名: シンフォニアテクノロジー株式会社 豊橋製作所

タイトル: 530 運動環境協議会(豊橋市)への参画



活動事例 概要

去る 2017 年 9 月、豊橋市 530 運動環境協議会(以下、530 協議会)の会員になったことで、市内で開催される 530 運動に関連するイベント情報を入手することができるようになりました。休日かつボランティアでの活動となりますが、530 協議会のイベントに積極的に参加することで、地域貢献及び知名度アップに繋げていくのが狙いです。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

【きっかけ・背景】

生物多様性保全活動、地域貢献活動の取り組みを拡げようと考えていたところ、豊橋市役所環境部殿より 530 協議会の紹介があり、豊橋製作所として参画することを決定しました。

【苦労した点】

週末は地域行事と重なることが多く、イベントへの参加者が少ないのが現状です。少しでも多くのイベントに参加することが地域貢献及び知名度アップに繋がるので、活動内容を社内報へ掲載する等情報を発信し、意識付けを図っていきます。

活動事例の説明

530 運動環境協議会



清掃活動の様子



当日参加者(全体)

当社は、530 協議会主催のイベントに参加する形で活動しています。

メッセージ

530 協議会のイベントに参加することにより、多くの近隣企業が参画していることを実感しました。今後も積極的に参加していきます。

事例 No. 5

対応愛知目標:

会社名: シンフォニアテクノロジー株式会社 伊勢製作所

タイトル: 地域貢献活動への参画



活動事例 概要

当社では、環境基本方針の重点課題として「環境保全活動を通じて地域社会への貢献」を掲げ、さまざまな活動に参加しています。春と秋実施の伊勢製作所全従業員を対象とした製作所周辺の清掃活動“ゴミゼロ運動”や従業員有志による県営サンアリーナの花もも植樹活動等にも参加しています。2018年度には伊勢市ボランティアセンターより、情報提供を受けるようになり、更に地域貢献活動が広がってきています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

伊勢製作所が第一歩としてできる活動を模索し、製作所周辺のゴミゼロ運動の取り組みをはじめました。最近では活動の幅を広げ、花ももの植樹活動、鳥羽市答志島及び二見浦海岸の清掃等、製作所を離れた地域貢献活動が増加していますが、休日のため、参加人数も少なく、毎回特定の参加者に限られる傾向があり、多くの方が自発的に参加してもらえるよう、活動参加者の募集方法や魅力的な活動内容になるよう、工夫を凝らしたり、苦労しています。

活動事例の説明



ゴミゼロ運動は定時後、製作所周辺の公道について、春と秋に2回、可燃ごみ、空き缶やペットボトル等のゴミ拾いと歩道の雑草等の刈り取りを行っています。毎回、可燃ごみを中心にパレターナ1つがほぼ満杯になるほどゴミを収集しています。



県営サンアリーナ周辺の花もも植樹活動は西日本一の花ももの里を目的とし、2018年4月で2,200本の植樹をしています。当社は2014年度から、継続して毎年植樹活動に参加しています。

メッセージ

社外の生物多様性の保全等の活動、地域貢献活動に参加し、他社や地域住民の方々が熱意をもって積極的に参加していることを実感しています。従業員の積極的な参加を促し、地域社会の貢献活動に対する意識付けを強化するため、新たに環境絵画コンクールを実施しました。今後は地域社会の一員として、更に活動の幅を広げていきたいと考えます。

事例 No. 6

会社名: 東芝ライフスタイル株式会社

タイトル: 希少生物の保護

対応愛知目標:



活動事例 概要

事業所内に生息しているギフチョウやカザグルマ(落葉性つる性多年草)その他の絶滅危惧種の保護に取り組んでいます。また、東海の一部地域のみ分布し瀬戸市にも自生しているマメナシ(落葉高木)を、事業所内で育成しています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

東芝グループの第5次環境アクションプランに生物多様性の保全が加わったことから、希少種保護の取り組みを始めました。はじめは希少生物には関わりがないのではと考えていましたが、調べてみると事業所の近隣には希少な植物が自生していました。そこで自社の敷地内を調査したところ絶滅危惧種の昆虫や植物が生息していることが分かりました。
事業所内は(1)従業員による管理が可能、(2)セキュリティが確保されていることから第三者による盗掘・乱獲や天敵による捕食・侵略的外来生物による駆逐の恐れが少ないという2点において極めて重要な動植物の保護区域となります。その敷地を活用し「法面の希少生物保護」および「マメナシの保護」の取り組みを始めました。

活動事例の説明

1. 法面の希少生物保護

近隣の林に希少植物が自生している情報を入手したことから、整地されていない自然のままの地形が残っている事業所の法面を調べたところ、シデコブシとカザグルマが自生しているのが分かりました。そのため、春・夏・秋に専門家による調査をおこなったところ、ギフチョウなど計5種の絶滅危惧種の生息を確認しました。
希少生物保護のため、法面の定期的なネザサ刈りや、ギフチョウの食草のスズカカンアオイを育成して2018年に法面に移植するなどの活動を行っています。



2. マメナシの保護

日本で愛知県と三重県、岐阜県にしか自生していない、世界的にも希少種であるマメナシの木が瀬戸市に自生しているという情報を、瀬戸市の環境課から聞きました。そこで、マメナシを保護している「せとマメナシ観察会」より、苗木4本を移植して頂き、事業所内で育てています。さらに、種から苗木を育てており、今後定植予定です。
毎年3月下旬から4月上旬に白い花が満開となり、心を和ませてくれます。



メッセージ

自社敷地内で希少な動植物を発見することができ、保護活動に取り組んでいます。この活動を通して、従業員が生物多様性に関する興味を持ってもらえるようPRを行っています。

事例 No. 7

対応愛知目標:

会社名: 東芝インフラシステムズ株式会社 三重工場

タイトル: 清掃活動による地域貢献取り組み



活動事例 概要

工場がある三重郡朝日町と一体となり、従業員のボランティア活動、地域住民との協調などを目的に、地域清掃を通じて住みよい街、朝日を目指しています。

また、朝日町とその地域にある企業が賛同して出来た『朝日町企業エコネット』にも参画し、その活動の一つとして清掃活動の取り組みを継続しています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

朝日町にある工場として地域住民に喜ばれる活動をしようという呼びかけをきっかけとして、1996 年より工場周辺美化促進のための清掃活動が始まりました。

2009 年には三重県が主体となり『朝日町企業エコネット』が立上がり、各社が各々の時期に実施していた清掃活動を同じ時期に行なおうという事になり、現在、朝日町と参画各社が活動しています。

活動事例の説明

清掃活動の取り組み

当工場では 6 月と 10 月の年 2 回実施しています。定時後のボランティア活動として、工場周辺の道路や歩道に出てゴミの回収を行っています。最近では従業員にもこの取り組みが浸透してきて、参加者も 2015 年の 466 名から 2018 年では 563 名と増加してきています。また、ゴミ回収物の重量は 2015 年が 110kg、2018 年では 70kg と減少してきています。町内のポイ捨てゴミ量が少なくなっているのは嬉しいことです。

【 清掃風景 】



【回収物分別】



【 回収物 】



メッセージ

清掃活動をすることにより工場周辺の美化も進んできました。従業員の意識も向上し参加者も増えてきています。

清掃活動の継続は、住みよい街はもちろんのこと、近年問題となっているペットボトル、ビニール袋等のゴミによる土壌や河川、海域への影響も軽減され、人にも生物にも優しい環境の具現化、持続につながります。

今後も地域と共に、この活動を大切にして、取り組んで参ります。

事例 No. 8

対応愛知目標:

会社名: 日東工業株式会社

タイトル: 公園工場の推進による地域環境保全への貢献



活動事例 概要

日東工業では、ゆとりある緑化をともなった工場:「公園工場」を推進し、
・町の景観整備の一環
・社員や住民への憩いの場所
として、社会環境や自然環境との調和を図っています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

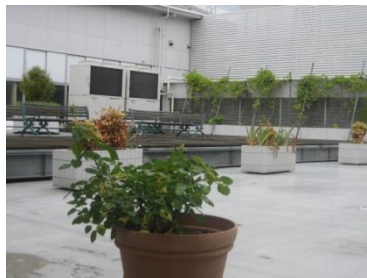
創業者の意思として、「働く人の人生の大部分を占める会社を、実りある生活環境にしたい」との精神の下に、ゆとりある緑化をともなった工場(通称:公園工場)を推進しています。
ゆとりある緑化を実現するために、以下の点に配慮しています。
・工場の入口を入ると、真っ先に目に入る広々とした、広大な芝生広場とオブジェを設け、緑の空間を演出しています。
・中庭等にも庭園を作り、工場の屋内には「職場に花と緑」をコンセプトに観葉植物等が置かれ、従業員の精神、肉体疲労の回復を高め、実りある環境を作っています。
・緑の植栽の中に彫刻を随所に配置することで、単なる緑地でなく芸術性を持った立体的な緑地造りを目指しています。
・"彫刻の道"として工場周囲の歩道に面した敷地に愛知県立芸術大学の先生や学生が手がけた彫刻作品 10 点を設置。通りがかる人たちに、身近で芸術鑑賞できる憩いの場を提供しています。

活動事例の説明

公園工場への取り組み 工場内の緑化保全



中庭の緑園づくり



メッセージ

今後も、創業者の想いがある「公園工場」を推進する中で、生態系ネットワーク形成にも貢献していきたいと考えています。

事例 No. 9

対応愛知目標:

会社名: 日東工業株式会社

タイトル: 愛Nクリーンへの継続参加による地域環境保全への貢献



活動事例 概要

愛知県の万国博覧会開催を契機として「町を訪れる方に居心地良く過ごしていただく」という趣旨で長久手市主催の清掃活動(通称:愛Nクリーン)がスタートしました。
当社も毎年参加し、地域交流を図る中で、きれいな街づくりによる環境保全活動へ貢献しています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

当社は長久手市の一員として、長久手市主催の取り組みに賛同し、継続的に参加しています。
長久手市では、地域の和を大切にすべく、2015年度からの清掃活動は、事業者や地域の方々と混じって行うスタイルになりました。
あらためて長久手市役所の方々と、自治会の皆様とともに、朝、顔を合わせて一緒に清掃活動することで、地域の和の重要性を感じることができました。
社内で清掃活動の積極的なPRを行い、参加者の拡大につなげています。
事業活動を進める上で地域の協力は欠かせません。今後も社内PRを推進し、多くの社員が参加することで、清掃活動をとおして地域に貢献していきます。

活動事例の説明

清掃活動の様子



参加者での撮影



メッセージ

愛Nクリーン活動への参加は、町がきれいになるだけでなく、地域との交流、さらには、生態系保護にも貢献します。今後も、社員の意識付けを図り、地域の輪を広げる中での生態系への保全にも貢献していきたいと考えています。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

事例 No. 10

対応愛知目標:

会社名: 日本ガイシ株式会社

タイトル: 社有地の生物調査



活動事例 概要

当社社有地(当社子会社が経営するテニスコートに隣接する旧庭園)について、鳥／昆虫／植物の生態を調査しました。調査は冬季と夏季に各1回実施し、多数の種類の生物が生息していることを確認しました。加えて早急に駆除対策が必要な外来種や、適正な保護が必要な希少種は認められなかったことから、調査地の管理状態に問題はないことを確認しました。

一方、本結果については、当社の年次レポートやホームページに掲載することで世の中に発信し、結果をまとめたパネルをテニスコート内のクラブハウスに掲示して、一般利用者に当地の生態系を認識していただけるようにしました。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

【背景】当社の第4期環境行動5か年計画(2016～2020年度)において、企業価値向上の観点から、強化項目の一つに生物多様性保全を取上げています。他社の事例を参考に、当社としては初めての試みである社有地の生物調査を実施することとなりました。

【苦労した点】

一般的に野生生物生息のポテンシャルが低い都市近郊にあり、適度な広さで、継続調査ができるように近隣に迷惑のかからない社有地を選定するのに苦労しました。

活動事例の説明

◇調査概要

調査日 : 第1回目(冬季)2017年2月8日、第2回目(夏季)2017年7月14日

調査範囲: テニスコート周辺および旧諸の木庭園
(テニスコートに隣接した当社管理地)

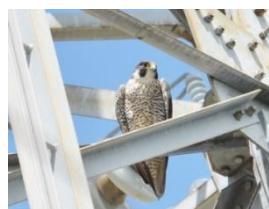
◇調査結果(夏季)

- ・旧庭園: 鳥類 20 種、昆虫類 46 種、草木類 120 種、
- ・テニスコート周辺: 鳥類 32 種、昆虫 78 種、植物 105 種
- ・特定外来種や上位の絶滅危惧種は認められず。



チョウトンボ

※ハヤブサが周辺の高圧鉄塔から、調査地に生息しているヒヨドリを捕獲している様子を観察しました。ハヤブサは近くの林に生息し、調査地周辺を狩り場にしていると思われ、生態系ネットワークに寄与しているであろうとのこと。



ハヤブサ



ヒヨドリを捕獲

メッセージ

今後も数年ごとに定点観測を実施し、管理状況を確認する予定です。

都市エリアでも、生態系の変化で野生生物が確認される事例をよく見かけます。日常生活の中でも、周囲の動植物に関心を持ちながら、生物多様性保全を意識したいと思います。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

事例 No. 11

対応愛知目標:

会社名: 日本ガイシ株式会社

タイトル: MY 行動宣言活動の推進



活動事例 概要

環境省がバックアップしている生物多様性保全の「MY行動宣言」に協力し、従業員に参加を呼び掛けました。2017 年度は 4,300 人(従業員の 97%)が参加し、環境省の事務局に報告しました。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

この活動を知ったのは、生物多様性保全のセミナーの事例紹介でした。一般的に生物多様性保全の取り組みは、定量的な目標策定が困難です。しかし、MY行動宣言は、参加者数や参加率が目標に設定することが可能なので、各職場の環境マネジメントシステムでの年次目標に組み込みやすく、活動推進者からは好評でした。

活動事例の説明

◇ MY 行動宣言とは

国連生物多様性の 10 年日本委員会(事務局:環境省)が推進する活動で、国民一人ひとりに生物多様性について認識していただき、行動につなげることを目的としています。2020 年までに 100 万人の宣言が目標。カードには日常的に取り組める活動が 5 つ記載されており、一つ以上行動できれば、カードに必要事項を記入し宣言するものです。

環境省事務局から MY 行動宣言カードを取り寄せて、当社の全従業員を対象に、賛同した人にカードへ記載してもらい、回収しました。回収したカードは事務局に返送するとともに、活動報告書を提出しました。

今後は、当社に入社する従業員に継続して参加を推進するとともに、国内グループ会社にも参加を呼び掛けました。

当社の参加実績は環境省のHPにも公表されており、企業価値向上につながる活動だと感じました。

MY行動宣言カード

メッセージ

MY行動宣言に記載されているアクションは、日常的に容易に実行できるものばかりです。皆さんも、これをきっかけに生物多様性保全について考えてみましょう！

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

事例 No. 12

対応愛知目標:

会社名: パナソニック エコシステムズ株式会社

タイトル: 環境絵画コンクールを継続開催



活動事例 概要

当社は、社会貢献活動の一環として、子どもの頃から環境を意識した行動ができるよう、2006 年から全国の小学生を対象として「環境絵画コンクール」を継続開催しています。第 13 回(2018 年度)は、『大切な自然・生きもの』をテーマに、全国から 712 点の応募がありました。これからの時代を担う子どもたちに美しい地球環境を残していけるよう、今後もこのコンクールを続けていくことが使命と考えています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

子供たちの環境を大切にする心を応援しようと、当社は環境絵画コンクールを 13 年間継続して開催してきました。「みなさん環境のことを とてもよく考えていて、環境を大切にしたいという思いが伝わってくる レベルの高い作品ばかりです。」

活動事例の説明

(第 13 回最優秀賞) テーマ 『大好きな自然・生きもの』 「ごはん大すき」 	(第 12 回社長賞) テーマ 『生きものといっしょ』 「家の裏の大親友」 	絵の表現だけではなく、メッセージが大変すばらしい作品が多く、表現方法や色使いなどが自由で、純粋な思いが伝わってきます。 子供たちは環境のことをよく勉強していると感じました。 すばらしい作品が多いため、優秀作品だけでなく総ての作品を当社のホームページで公開しております。 写真の説明・補足 子供らしい力強さや優しさ、豊かな発想など、最優秀賞を始めとする優秀作品の審査はとても楽しい時間となっています。
---	---	--

メッセージ

2006年に第1回の絵画コンクールを開催し、13 年間継続してきました。13 年間の応募総数が 5777 件となりました。その作品総てを当社ホームページで公開し、子供たちの環境を大切にする心を応援し続けていくことが使命と考えています。すばらしい作品の一部を紹介します。

タイトル 「みんなで話そう森のこと」 	タイトル 「みんな仲良くにじ色のちきゅう」 	タイトル 「すみきった水、きれいな海」 
--	---	---

事例 No. 13

対応愛知目標:

会社名: パナソニック エコシステムズ株式会社

タイトル: かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議に参加



活動事例 概要

かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議(PS 会議)は市民、事業者、市の三者協働による環境まちづくりを推進する組織として、平成 14 年から 10 年以上活動を行っています。さまざまな環境に関する活動を実施。PS会議は、三者協働で春日井市環境基本計画に示された取り組みを推進し、それにより持続可能な社会の実現に寄与することを目的としています。その活動の一部をご紹介します。詳細はPS会議ホームページを参照願います。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

当社は「企業人であると同時に一人の家庭人、社会人として環境に配慮できる市民であること」を目指し、従業員とその家族が家庭や地域社会でも積極的に環境活動を推進してきました。PS会議が主催するイベントや環境ボランティア活動への従業員参加及び企画運営にも積極的に参加しています。

活動事例の説明①

22 世紀奈佐の浜プロジェクトに参加: 庄内川に排水を放流してる春日井市では、PS会議が中心となり、市民の参加募集したところ自費での参加にも関わらず、20名もの市民が参加。春日井から参加の全員がグリーンベストで統一し一際目立っていました。

■春日井の参加者 ■当社からの参加者



■海岸清掃の様子



活動事例の説明②

庄内川河川アダプト清掃&野鳥観察&水生生物調査毎年実施: PS会議の運営委員町内会の皆さん、市民ボランティアが参加し、庄内川の清掃を行っています。ゴミ拾いをした後、夏は川に入り水中の生物観察や水質調査、冬は野鳥観察を実施。当社従業員も多数参加しています。

■野鳥観察の様子 ■水中生物観察水質調査



■皆でゴミ拾い ■川に住む生き物探し



メッセージ

PS会議は春日井市との共催による環境イベントや市民団体の支援、当会議の自主活動を通じて広く市民の皆様に発信し、環境まちづくり、地域づくりに向けた各種活動を行っています(当社も設立当初から活動に参加)。これからも環境まちづくりに貢献してまいります。

事例 No. 14

対応愛知目標:

会社名: パナソニック スイッチギアシステムズ株式会社

タイトル: 工場緑化と環境施設の紹介



活動事例 概要

当社の活動は工場立地法に関連する取り組みです。現状では緑地面積や生産面積を増やすことは出来ません。空きスペースを活用した取り組みをご紹介します。数年前に実施した耐震工事の基礎があるのは、南に面した日当たりの良い場所です。この基礎の上面と正門前保安室の屋上に太陽光発電設備を設置しました。緑地以外の環境施設となりますが、有事の際には非常用電源としても活用します。また、駐車場の一角にEV車用の充電設備を設置しました。EV車でお越しのお客様は是非ご利用下さい。これらの活動は全てが環境保全に配慮した取り組みです。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

私達の工場はこの地で操業を開始し83年になります。パナソニックの関係会社の中でも歴史のある工場です。創業当時と比べ現在は住宅地に囲まれ立地環境も大きく様変わりしました。隣接する工場はマンションに変わるなど環境は厳しくなる一方です。しかしながら、近隣の皆様にご迷惑をお掛けするわけには参りません。一見相反するような企業活動と環境保全活動を両立することは簡単ではありませんが、常に環境保全を念頭に精一杯の努力を惜しみません。

活動事例の説明

■工場の緑化管理

工場の構内には凡そ 850 本の木が植えられています。正門前の工場開設 50 周年のモニュメントがお客様を出迎えます。30 種類の低木 800 本と 18 種類の高木 50 本があります。工場内には多くの記念碑やモニュメントがあり、歴史を感じます。グラウンドは一面芝生に覆われ天気の良い日は思わず寝転びたくなります。グラウンドの周りは記念植樹の桜やもみじが多く植えられています。



■太陽光発電設備の設置

工場の南面に太陽光発電のパネルが並んでいます。パネルの枚数は全部で 96 枚あります。年間の発電量は約 23MWh です。



■EV駐車場の設置

社用車用の充電設備を設置しています。環境に配慮した排ガス発生の少ないハイブリッド車を社用車として採用しています。現在は社用車3台中1台のみの運用ですが、今後、徐々に切替を計画しています。



メッセージ

今後もこの地で操業を続けることは企業としての重要な責務であると考えています。引き続き皆様に愛され期待される「クリーン」かつ「グリーン」な工場づくりを目指して参ります。

事例 No. 15

対応愛知目標:

会社名: パナソニック スイッチギアシステムズ株式会社

タイトル: 地域貢献活動



活動事例 概要

当社では、毎年5月30日を『ゴミゼロの日』と位置づけ全従業員を対象に清掃活動を行っています。工場内は勿論、工場周辺道路、通勤経路や駐車場などの清掃を継続的に実施しています。また、労働組合主催で、ファミリーイベントを開催しています。イベント目的はグループ仲間とその家族を含めた交流及び、親睦が目的で、生き物とふれあいながら家族で海岸清掃も行っています。当社は本年4月1日にパナソニックスイッチギアシステムズ(株)として社名を変え新たなスタートを切りました。この地での持続的な事業成長に向け、地域から益々愛される会社を目指し地域活動にも積極的に参画して参ります。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

当社の職場懇談会は『はんえい会』という形で行っています。この『はんえい会』では『職場はんえい会』『行動はんえい会』『交流はんえい会』等があり、職場や部署の垣根を超えコミュニケーションを活発に行い交流することで、従業員の一体感醸成とモラルアップに寄与しています。『530 運動』も、『はんえい会活動』の一つとなっています。労働組合においても、様々な活動を実施しています。参加率を上げるために遊びとボランティアを取り入れ、活動の活性化を図っています。個人での活動については、町内清掃への参加から始まり、市町村や県へと幅を広げた参加を推進しています。

活動事例の説明

■工場の緑化管理

定時後に各担当場所へ移動し
空き缶やペットボトル、たばこの
吸殻等を拾い集めています
(参加人数 約 450 名)



■『労働組合行事』: 海岸清掃

人、海の生き物とふれあいながら
清掃活動をしています。



メッセージ

まだまだ生物多様性の取り組みが浸透していない状況にありますが、生物多様性を知らずに、何かしら貢献出来ていることも多々あると思います。一人ひとりの活動が大きな成果に繋がり、家庭や会社生活においても出来ることが山ほどあると思います。今後も、地域社会へ貢献出来る様、積極的に活動していきます。当社事業スローガンでもある「未来のあたりまえを、いま創る」に想いを込め、この自然・この地球を、未来へ引き継がなければならないことを使命に推進していきます。

事例 No. 16

会社名: パナソニック株式会社エコソリューションズ社 津工場

タイトル: ながきの森植林及び地域の清掃活動

対応愛知目標:



活動事例 概要

植林活動は、本社が中心となり、2007年より松下幸之助創業者生誕の県である和歌山県の『ながきの森』にて行っています。毎年、津工場からも参加し活動を行っています。

(創業者の生誕地をスタートとして、首都圏に『毛呂山 ながきの森(埼玉県)』等、生物多様性保全の活動を継続していくとともに、今後も更に労使共催で推進して行きます。)

[本行事の狙い]

- ◆本業で多くの森林資源を活用することから、「緑」への恩返し活動を行う。
- ◆緑を育むボランティア活動を行い、一人ひとりの社会貢献意識を高める。

津工場周辺の清掃活動は、毎年労使共催によって行っています。4月から9月まで事業組織ごとに、毎月清掃活動を実施し、清潔な街づくりの一環として活動を行っています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

津工場として苦労した点は、植林活動が和歌山県のため現地までの距離が遠いことから、早朝の集合となるため、参加者数も心配していたのですが、徐々に社内に環境活動への意識が高まり参加人数が増えてきました。

活動事例の説明

【ながきの森植林】

ながきの森は、約 20 ヘクタールの広さで「森や生き物がいつまでも長生きするように」という願いを込めてネーミングされました。

毎年、社員とその家族、OB らが参加し植栽や下草刈を行っています。

【津工場周辺の清掃活動】

4月から9月まで事業組織ごとに、毎月清掃活動を実施しています。

津市のゴミ分別基準に合わせ、回収袋を分け、ゴミの分別に対する意識も高まりました。

本計画は、津市にも提出し、ゴミの最終回収は津市に依頼しています。

写真



メッセージ

植林活動は全社的な活動です。今後も植林活動、清掃活動の二つの活動は続けていきますが、将来は生物多様性として津工場特有の活動が PR できるよう推進していきたいと考えています。

事例 No. 17

対応愛知目標:

会社名: 富士電機株式会社

タイトル: 自然環境保護と社会貢献活動の取り組み



Project 01

Project 05

Project 14

活動事例 概要

【富士電機生物多様性行動指針】

1. エネルギー関連事業で環境負荷を低減し、生物多様性保全に貢献する
2. 事業活動における生物多様性への影響の最小化を図り、持続可能な利用に努める
3. 社会と連携し、生物多様性保全に配慮した活動を積極的に推進する

【地域貢献活動基本方針】

1. 事業で培った「人」と「技術」で、時代・地域の期待に応える
2. 事業を行う地域での活動を基本とする
3. グローバルで連携し、一人でも多くの社員が参加する

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

地球環境への意識が世界的に高まる中で、富士電機が従来から取り組んできた地球温暖化防止や資源循環、化学物質管理などの環境負荷低減活動に加え、2010年3月に「生物多様性行動指針」を、さらに「地域貢献活動基本方針」を2012年に策定し取り組みを推進しています。

活動事例の説明

◆鈴鹿工場では地域の美化活動として、毎年5月下旬工場周辺の清掃活動を実施しています。職場の仲間と汗を流し、約200袋分のゴミを回収。周辺住民から感謝の言葉も頂いています。



◆次世代育成支援として小中学生を対象に理化学教室、理科実技研修、環境学校を開催してきました。



◆自然環境保護として、農地再生活動、里山再生活動、森林保護活動に取り組んでいます。



◆タイでは、海洋・河川の保全活動として海洋生物の生息場所の保護および海岸の清掃を行っています。



メッセージ

鈴鹿工場の地域の美化活動は20年以上も続いており、最近は工場の魅せる化活動の一環として敷地内の清掃にも取り組んでいます。私たちは生物多様性がもたらす恩恵と、事業活動が与える影響を認識して策定した行動指針のもと、生物多様性の保全に努めています。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

事例 No. 18

対応愛知目標:

会社名: 株式会社マキタ

タイトル: 充電式OPEの開発・販売



活動事例 概要

高効率モータの開発やバッテリーの高容量化を行い、エンジン製品が主であったOPEの電動化及びコードレス化を実現しました。

※OPEとは、園芸用・農業用・林業用など屋外で使用する各種工具機器(Outdoor Power Equipment)の略称。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

弊社は、「人の暮らしと住まい作りに役立つ工具の国際的総合サプライヤーとして、豊かな地球を未来社会に伝えるため、生物多様性に配慮した幅広い地球環境保全活動に取り組む」を環境方針の基本理念に掲げ、環境負荷低減技術を導入した製品を開発・販売しています。
「エンジンから充電へ」をキーワードに、充電式OPEの開発・販売の強化に取り組んでいます。

活動事例の説明

充電式OPEは従来のエンジン式と比べて、工具使用時に、排ガスが出ない、騒音・振動が少ないといった環境面で大きなメリットがあります。また、同クラスのエンジン製品と比較し、50%以上のCO₂削減となります。

国内外において、充電式OPEのパワーやメリットを実際に販売店やユーザーの方々に体感していただくためのイベントや活動を数多く実施し、弊社の充電式OPEに対する認知度の向上に努めています。



また、高効率モータとリチウムイオンバッテリーを搭載した充電式OPEが環境負荷の低減に大きく貢献するものと高く評価され、「2018愛知環境賞」の銀賞を受賞しました。



メッセージ

弊社は従来から強みとしているモータ技術とバッテリー制御技術の組み合わせを活かした充電式OPEの開発を進め、園芸用機器における「エンジンから充電へ」の取り組みを今後も力強く継続してまいります。

事例 No.19

対応愛知目標:

会社名: 株式会社マキタ

タイトル: 工場・事業所周辺の環境整備



活動事例 概要

1. 屋上緑化の実施
2. 工場・事業所周辺の清掃ボランティア活動

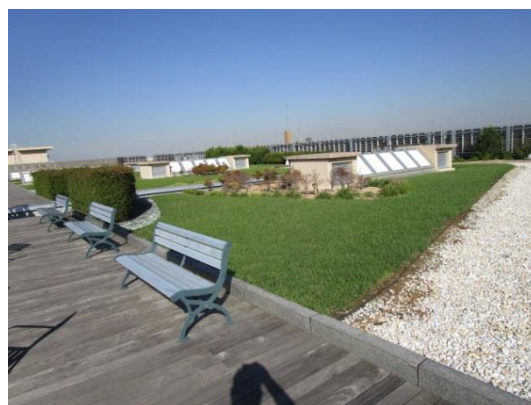
取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

当社では、工場・事業所周辺の環境を良くすることも生物多様性の保全につながると考え、緑化の推進や、工場・事業所周辺の清掃ボランティア活動を実施しています。

活動事例の説明

■屋上緑化

当社の岡崎工場で屋上緑化を実施しています。広さは 30m×50m程度ですが、建物内の温度上昇を防ぐことによる空調電力の削減、緑化面積拡大によるCO₂吸収量増加に貢献しています。



■工場・事業所周辺の清掃ボランティア活動

本社では、安城市が行っている「町を美しくする運動」の一環として毎年5月と10月に、社内の参加者を募り、本社周辺の清掃活動を行っています。また、岡崎工場では、工場敷地の東側遊歩道の清掃を毎月実施しています。



メッセージ

今後も当社は地域との交流を図り、積極的な環境保全活動に取り組んでいきます。また、植栽として在来種をできるだけ導入するなど、積極的な緑化整備も行っていきたいと考えています。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

事例 No. 20

対応愛知目標:

会社名: 三菱電機株式会社 中津川製作所

タイトル: 里山保全活動・野外教室



活動事例 概要

当社は 2006 年より、“環境マインドの育成”を目的とした「**みつびしでんき野外教室**」「**里山保全活動**」を各拠点で開始しました。

中津川製作所におきましては、2008 年より中津川市・恵那市にまたがる「根の上高原・つつじ園」において、中津川市・根の上観光保勝会と三者協定を結び、里山保全活動を実施しています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

2006 年 12 月より活動の検討を開始し、関係者（行政・地域）と討議を重ね、2008 年 6 月の第 1 回開催までに 1 年半を要しました。

「地元の里山保全活動と、将来を担う子供たちへの環境塾を通じ、自然を大切にする心を伝え、環境保護への貢献を果す」事を目的として、3 回/年(6 月、9 月、11 月)の活動を 2008 年より継続して実施しています。

活動事例の説明

【里山保全活動の様子】



【野外教室「森のめぐみ塾」】



- ◆フィールド・・・ 県立公園「根の上高原・つつじ園」
- ◆実施時期・・・ 6,9,11 月(年 3 回)9:00～13:00
- ◆参加対象・・・ 従業員と家族、地域の親子、行政
- ◆実施内容・・・ ①保全(植生調査、下草刈り、剪定、実生苗の植付け、等々)
②親子野外教室

メッセージ

当社は 2010 年 5 月に定めた「**三菱電機グループ生物多様性行動指針**」に従い、事業活動での生物多様性への配慮、持続可能な事業活動を通じた社会の発展を目指し、今後も活動を継続致します。

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

事例 No. 21

対応愛知目標:

会社名: 三菱電機株式会社 中津川製作所

タイトル: 生産時 CO₂ 排出量削減活動



活動事例 概要

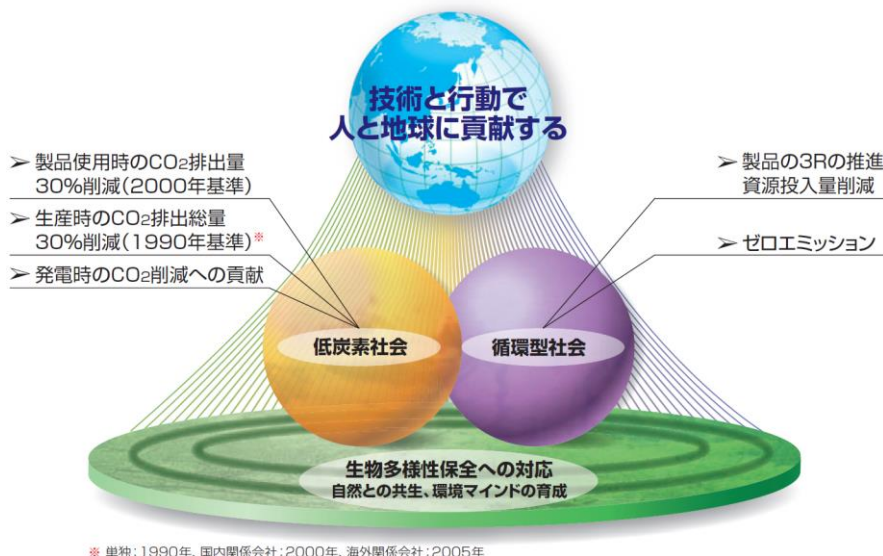
三菱電機グループが定めた「**環境ビジョン 2021**」達成のため、中津川製作所では全員参加型の工場省エネ活動に取り組んでいます。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

持続可能な社会実現のために三菱電機グループがあるべき姿を見定め、地球温暖化防止と循環型社会に向けた長期的な取り組みを示した「**環境ビジョン 2021**」を定めて活動しています。
環境ビジョン 2021 では、生産時の二酸化炭素排出量を 1990 年度を基準として 2021 年までに 30%削減する事を目標としています。

活動事例の説明

2017 年度は生産時の二酸化炭素排出量を目標 137 万 t に対して 127 万 t と、目標を達成しました。



中津川製作所では、「省エネ委員会」を組織し、各部門に「省エネ委員」を配置して、日々の改善活動を行っています。(照明の LED 化、エアリーク対策、設備の待機電力削減、断熱、生産性向上、運転方法見直し等)

また、環境月間(6 月)には毎年外部講師を招いた省エネ講和及び環境講和を開催し、従業員の環境意識向上に努めています。

メッセージ

“技術と行動で人と地球に貢献する”を指針に定め、当社の特長である幅広い高度な“技術”と、社員の積極的・継続的な“行動”の推進によって、事業活動を通じ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

事例 No. 22

対応愛知目標:

会社名:三菱電機株式会社 名古屋製作所

タイトル:三菱電機名古屋製作所の企業の森づくり



活動事例 概要

愛知県と「企業の森づくり」協定を締結し、約 1 回/月、県有林にて里山保全活動に取り組んでいます。
(2010 年 2 月より、中部支社とも連携。)
協定締結日:2007 年 10 月 1 日 更新日:2016 年 4 月 1 日 (活動 12 年目)
活動区域:名古屋市守山区大字上志段味字東谷地内(5ha)※愛知県自然環境保全地域指定(2010 年 4 月)
活動内容:森林整備(下草刈り、枯損木整理、除間伐)、環境美化活動(ゴミ拾い)、環境教育活動(イベント開催等)

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

【きっかけ、背景】

2005 年 11 月に社内で「三菱電機グループ社会貢献検討 WG」が設置され、当社社会貢献活動の見直しを検討してきた。「持続性」「全国展開」と「人材育成」をキーワードに、社員自らが汗をかくボランティア活動の更なる活動促進を目的として、社員参加型プログラム「里山保全プロジェクト」が 2006 年 7 月に立ち上がり、COP10 開催地でもある名古屋の地におけるプロジェクト第 1 号として、2007 年 10 月より活動を開始しました。

【苦労した点】

1. 活動エリアの選定

継続した活動となるよう、「①各候補地までの利便性」、「②既にエリア内で活動されている団体の有無」、「③主体性をもった当社らしさの出るプログラムの実施可否」の 3 点を考慮し、選定しました。

2. 活動ノウハウについて

社内にノウハウを持つ人材の確保に苦慮したため、地域で活動している団体を行政から紹介してもらい、有識者のご指導のもと、協調という形で活動をスタートしました。

3. 活動を継続させるための社内体制の構築と活動人員確保

社内に里山保全推進委員会を設置し、1 回/月委員会を開催し、委員会メンバーにて活動計画の策定を実施。また、本活動は、年間 12 回以上現地活動を実施しており、活動継続のためには人員確保が最重要課題であると考え、新入社員研修や社内広報誌等、社内のあらゆる機会でご本活動を紹介し、活動人員を確保しています。

【環境教育活動】

年 3 回イベントを開催し、環境教育の場として活用。



【環境美化活動】(ゴミ拾いの様子)

頻度:1,2 回/年



【里山保全活動】頻度:2,3 回/月



メッセージ

私たちは、2007 年 10 月にこの活動をスタートさせ、現在 12 年目に突入しました。それまでに里山保全活動を計 280 回(延べ 5,693 名)、環境教育活動を計 56 回実施してきました。(2018 年 9 月末実績)
この活動を通じて、自然と共生する大切さ、楽しさを知ってもらうことにより、環境や社会に対し高い意識を持つ人材を育成していきたいと考えています。また、当社の活動への理解を深めてもらい、当社ファンを増やしていくためにも、今後も行政・地元住民・地元有識者・市民団体との連携を図りながら、地道な活動を継続させていきます。

事例 No. 23

対応愛知目標:

会社名: 株式会社 明電舎 名古屋事業所

タイトル: 中学生への校外学習(職場訪問)の実施



活動事例 概要

当社では、毎年1月に社会貢献活動の一環で、中学生への校外学習(職場訪問)を受入れています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

中学校が名古屋市及びその近隣の企業の環境対策に関する訪問調査活動(環境教育)を実施されるということで、受入を行っています。

活動事例の説明

当社及び名古屋地区の紹介と環境に対する様々な取り組みを説明し、工場及び環境関係の設備の見学を行いました。

まず、当社製のインバータ・モータを搭載した電気自動車(三菱自動車様 i-MiEV)に試乗し、乗り心地を体験。地球温暖化の問題についても考えてもらいました。乗車された生徒さんは、「静かだー」ととても感動されていました。



また、水資源を有効に活用するため、当社製の膜分離排水処理システムを見学してもらいました。この膜分離排水処理システムは、確実な固液分離が図れ、運転管理が簡単で、処理水のリサイクルにも活用ができるシステムです。



最後にあらかじめ頂いていた質問に対し、回答しました。「私達にできる身近な取り組みは何ですか」や「今まで持続可能な社会にするために活動をしてきてよかったと感じることは何ですか」など、具体的な取り組み内容についての質問があり、有意義な見学となったようです。



メッセージ

見学された生徒さんには、環境を守るために一人一人が何をしていないといけないかを考えるいい機会になっていると思います。

事例 No. 24

対応愛知目標:

会社名: リンナイ株式会社

タイトル: 「抜く!」 生物多様性保全活動



活動事例 概要

6月の環境月間に合わせて、当社の大口工場（愛知県丹羽郡大口町）、瀬戸工場・暁工場（ともに瀬戸市）周辺で、特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除活動を実施しています。今年で2年目の開催です。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

「業務時間内」に効率よく進められる活動がないか悩むなか、まずは“地元の自然”を知ることが生物多様性保全の一歩だと思い、工場周辺で自然観察会を開催しました。隣接する国道沿いのアスファルト目地で、在来種の生息地を奪う特定外来生物「オオキンケイギク」を発見したことをきっかけに、当社の生物多様性保全の1テーマとして駆除を始めています。社内展開の際には、当社がこの地で事業活動を行うことで起こりうる環境影響（生物多様性との繋がり）を社内報など、なるべく平易に伝えて協力者を募りました。

活動事例の説明



オオキンケイギク(黄色い花が目印)



当社社員・近隣企業・行政の皆さんとの駆除活動

■特定外来生物とは

他の地域から持ち込まれた生物の中で、生態系に被害を及ぼす恐れのものうち、国が定めたものを行い、栽培、保管、輸入、運搬、飼育が禁止されています。

■当社のオオキンケイギクの駆除活動(2018年度実績)

当日は、近隣企業や行政の皆様にもお声がけをし、63名の参加がありました。青空の下、2時間ほどかけて、約1,800㎡の周辺道路に生えているオオキンケイギク180kg分を回収しました。

メッセージ

工場の周辺道路は、多数の従業員が通勤で使用し、また、部品納品や商品出荷用のトラックが多数往来しています。オオキンケイギクは、非常に繁殖力の強い多年草のため、行き交う車両に種子が付着して運び込まれて、当地に生息してしまった可能性が考えられます。生息を放置しておくと、別の場所に拡散し、さらに広範囲に生息してしまう恐れがあるため、今後とも定期的に駆除を行ってまいります。興味のある方は、当社環境部までご連絡下さい。

事例 No. 25

対応愛知目標:

会社名: リンナイ株式会社

タイトル: みんなでつくる伝統野菜



活動事例 概要

愛知県に本社を置く当社では、江戸時代から親しまれている愛知県の伝統野菜や旬の野菜の種を年間約 600 名の従業員(希望者)へ配布し、伝統野菜づくりに挑戦してもらっています。地域の食文化や自然を知るとともに、緑に親しむ機会の場としています。

取り組みのきっかけ・背景、苦労した点

きっかけは、定期発行している環境社内報「eco のコエ」の中で掲載した伝統野菜キャンペーンです。読者に、「なぜ、当社が伝統野菜なのか」を理解してもらえるよう、地域の食文化や地産地消に関するアンケートに答えてもらいながら、その大切さを伝えていきました。当初、懐疑的な意見もありましたが、活動が定着し始めると、「やってみると楽しい、失敗してしまったので次回もチャレンジしてみたい」など、前向きな意見をもらえるようになりました。

活動事例の説明



●主な栽培種(伝統野菜の歴史・産地)

- ✓ 愛知本長なす(昭和・あま市) ✓ 青大きゅうり(昭和・尾張地方)
- ✓ 十六ささげ(大正・愛西市、稲沢市) ✓ 大高菜(江戸・名古屋市)

●実績

収穫や調理の様子(写真)を事務局へ送ってもらい、社内イントラネット等を通じて従業員へ紹介しています。また、当社技術センター(敷地内)においても伝統野菜づくりを行い、収穫した伝統野菜を希望者 150 名へ配布しました。

メッセージ

参加者からは、「家族一緒に気軽に緑に親しめる、野菜づくりを通じて家族とのコミュニケーションが高まった、地元の野菜の話が食卓で話題になった」等の声をいただいています。当社の事業所は、全国各地にあるため、全国の伝統野菜の大切さを各地域へ伝えていければと思っています。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal dashed lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a guide for handwriting practice. There are no other markings, text, or illustrations on the page.

JEMA が参加する電機・電子4団体(JEMA、JEITA、CIAJ、JBMIA)にて生物多様性 WG を発足し、生物多様性保全活動の推進のための様々な取り組みを行っています。全国の取り組み事例など、ぜひご参照ください。



おわりに

Let's start biodiversity action !

私たちの暮らしを支える生物多様性を次世代に

引き継ぎ、事業を将来に渡って継続するために、

できるところから取り組みをはじめてみましょう。

【2018 年度 JEMA 名古屋支部 環境委員会】

委員長	池ノ上 秀樹	三菱電機株式会社中津川製作所	製造管理部環境推進課
副委員長	前田 健太郎	パナソニック エコシステムズ株式会社	環境推進室
メンバー	太田 博視	愛知電機株式会社	管理本部総務G
	桑原 清高	河村電器産業株式会社	総務部危機対応課
	松田 重治	シンフォニアテクノロジー株式会社	環境保全室
	平野 徹	東芝ライフスタイル株式会社	品質・環境センター EHS推進担当
	堀口 直樹	東芝インフラシステムズ株式会社三重工場	管理部
	廣田 賢一	日東工業株式会社	施設環境室環境管理課
	藤井 知之	日本ガイシ株式会社	環境経営統括部
	大塚 孝行	パナソニック スイッチギアシステムズ株式会社	製造部施設動力課
	笠谷 重夫	パナソニック(株) エコソリューションズ社 津工場	加工技術開発部環境施設課
	中村 雅昭	富士電機株式会社鈴鹿工場	第一製造部環境施設課
	三浦 秀都	株式会社マキタ	環境・保全室環境グループ
	鷲津 人司	三菱電機株式会社名古屋製作所	生産システム推進部環境推進課
	倉見 香織	株式会社明電舎名古屋事業所	総務勤労課
	宮島 雅和	リンナイ株式会社	環境部環境管理チーム
	大澤 一裕	一般社団法人 日本電機工業会	名古屋支部
事務局	山崎 洋和	一般社団法人 日本電機工業会	名古屋支部

伊勢湾を守ろう ～ 生物多様性保全と地域共生環境活動 ～ 第2版

第2版 2019 年 3 月

企画・発行 一般社団法人 日本電機工業会 名古屋支部

〒460-0008 名古屋市中区栄 2-10-19 名古屋商工会議所ビル6F

電話 052(231)5211 FAX 052(231)5610